

第29回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム報告

副実行委員長 松田 巖 (東京大学放射光連携研究機構, 東京大学物性研究所)
 実行委員長 辛 埴 (東京大学放射光連携研究機構, 東京大学物性研究所)

2016年1月9日(土)から11日(月・祝)の3日間、東京大学柏キャンパスにおいて、第29回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム(以下、年会・合同シンポ)を実施しました。今回は実行委員長を辛埴、副実行委員長を松田巖が務め、プログラム委員長を東京大学理学部の藤森淳先生、副プログラム委員長を東京大学大学院新領域創成科学研究科の有馬孝尚先生が務めました。特に東京大学大学院新領域創成科学研究科の篠原佑也幹事には組織委員長として大変ご尽力いただき、おかげさまで順調に運営を進めることができました。

東京大学では1993年と1997年に本郷キャンパス、2002年に柏キャンパス(物性研+東葛テクノ)、そして2009年に再び本郷キャンパスで年会・合同シンポを開催してきました。今回は柏キャンパスとして、つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス」駅前の「東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト(東京大学フューチャーセンター推進機構)」、「柏の葉カンファレンスセンター(三井ガーデンホテル柏の葉)」、「オークビレッジ柏の葉」の3会場にて年会・合同シンポが開催されました(写真1)。この「柏の葉キャンパス」駅周りは急激に開発が進み、その変貌に驚嘆した参加者もおられたようです。そしてこの新しい環境で開催された今回の年会・合同シンポでは1)参加者数640名(市民公開講座を含めると703名)、2)発表件数(口頭+ポスター)343件、3)企業展示数58社(59ブース)、4)懇親会出席者数372名(内学生数49名)と、幸いなことに大変盛り上がったものとなりました。本稿では開催期間中の年会・合同シンポの様子と実行委員会の準備の中で印象に残ったものを中心に振りかえらせていただきます。

年会・合同シンポのメインとなる特別講演では愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センターの入船徹男先生に「放射光を利用した高圧地球惑星科学の発展と課題」(写真2)、東京大学放射光連携研究機構の尾嶋正治先生に「イノベーションを支える高輝度放射光」(写真3)について御講演いただきました。今回用意した最大の会場を満杯にした観衆は、両先生の素晴らしい御研究にとっても魅了されていました。若手の学会奨励賞受賞講演には高輝度光科学研究センターXFEL利用研究推進室の片山哲夫氏が「X線自由電子レーザーを利用したフェムト秒X線分光法の開発」、京都大学産官学連携本部の河口智也氏が「回折XAFS法の開発とその電池材料解析への応用」と題してそれぞれの研究について講演されました(写真4)。今回



写真1 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト入口の様子



写真2 入船徹男先生の特別講演

の年会・合同シンポでは企画講演として『機能発現サイトの三次元可視化最前線』、『量子ビームの連携による新しい構造生物科学』、『細胞から生体高分子までの時空間階層イメージングと放射光』の3件が実施され、それぞれ会場は満杯となり、参加者の間で熱い議論が交わされていました。

一般講演のプログラムは各分野において著しい成果をあ



写真3 尾嶋正治先生の特別講演

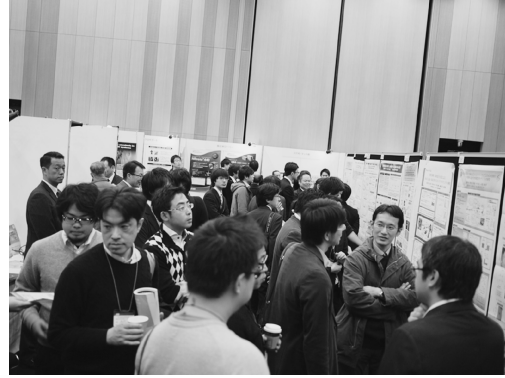


写真6 ポスター・企業展示会場の様子



写真4 学会奨励賞受賞者の片山哲夫氏(右)と河口智也氏(左)、石川会長と



写真7 市民公開講座会場の様子(講演前)



写真5 一般講演会場の様子

げられた9名の招待講演者を中心に構成され、それぞれのセッション会場は大いに盛り上がっていました(写真5)。ただ、今回の開催会場の都合で一般講演は3つの建物に分かれて実施されました。そのため参加者の皆さんには移動でご不便をおかけしてしまいました。ポスター発表はホール、ホワイエ、そして廊下にて、企業展示ブースを間に入れる形で実施し、企業の方と研究・技術者についてお互いの情報が見やすくなるよう配慮させていただきました(写真6)。会場は少し狭くなりましたが、両方の関係者から好評でした。

放射光科学の魅力を社会に伝えるため、今回も恒例の市民公開講座「暮らしに役立つ放射光」を開催致しました(写真7)。東京大学柏キャンパス見学も経て、参加者には

お2人の先生の御講演を聴いていただきました。警察庁科学警察研究所法科学第三部の瀬戸康雄先生には「先端物理・化学技術を科学捜査・危機管理に活かす」、江崎グリコ株式会社健康科学研究所の小林隆嗣先生には「SPRING-8を用いたむし歯修復の新しい概念「再結晶化」の実証とガム「POs-Ca」への応用」という題目でご講演いただきました。アンケートによると、「安全」と「安心」をテーマにした今回の内容は参加者に対して大変好評でした。

今回の年会・合同シンポの懇親会はつくばエクスプレス「浅草」駅前の浅草ビューホテルの宴会場で実施しました。今回の開催会場がつくばエクスプレスの駅前であった立地条件を活かし、参加者には本線を利用して移動してもらいました(移動時間:約30分)。懇親会では、東京大学総長の五神真先生と文部科学省科学技術・学術政策局研究開発基盤課量子放射線研究推進室室長の上田光幸様に来賓のご挨拶をいただきました。五神総長には東京大学における放射光科学の取り組みと、我が国の光科学に対する今後の期待を聴かせていただき、そして「東京大学としては、引き続きこの(放射光)分野に大きな支援を惜しまない」と大変、心強いお言葉も頂戴することができました(写真8, 9)。懇親会の終わりに、これまで学会事務局として日本放射光学会を親身に支えてきてくれた、西野三和子様、佐藤亜己奈様、田尻麻奈様にサプライズで花束が贈呈されました。参加者から贈られた拍手の時間が大変、永く、とても



写真8 五神総長のご挨拶（懇親会）



写真9 懇親会での鏡割りの様子 左より兩宮機構長，五神総長，石川会長，上田室長，太田先生，辛実行委員長

感動的でした。（写真10）

最後に実行委員会での取り組みについて触れてさせていただきます。今回はこれまでの年会・合同シンポを踏まえて運営しただけなく、さらに2つのことに挑戦しました。1つはこれまでの開催ポスターだけでなく、講演募集ポスターも今回は用意し、学会及び共催段階の皆様には年会・合同シンポをより身近に感じてもらうと共に、より充実したプログラムになるよう努めさせていただきました（写真11）。そのために組織委員会及びプログラム委員会を例年よりも早く実施し、各委員には早い段階からご協力いただきました。2つ目は、これまでの年会・合同シンポの会場で耳にした意見を取り入れて今回は「託児室」を設けました。これは年会・合同シンポとしては初めての試みだったため、他学会の取り組みなどを勉強し可能な限り万全な準備を整えさせていただきました。しかしながらメ切までの申込は0件だったので、実際に利用した参加者はおられませんでした。

この他にも、充実した年会・合同シンポにするために実行委員会では様々な工夫をさせていただきました。ポスターの下絵については、二科展入選者のイラストレーター小川克信氏にお願いし、今回の年会・合同シンポのために



写真10 放射光学会事務局，田尻さん（左），佐藤さん（中央），西野さん（右）への花束贈呈



写真11 講演申込ポスター

作品を製作してもらいました。また、年会・合同シンポとして新しいホームページ (<http://www.jsrr.jp/jsr2016/>) を用意し、講演及びポスター会場の様子を写真入りで紹介させていただきました。さらに、年会・合同シンポにおいて、サテライト研究会や各種委員会が実施できるよう、部屋も多めに準備させていただきました。今回の年会・合同シンポについて、参加者の皆様が少しでも有意義に思われたのならば、実行委員会としてこの上ない幸せです。

以上のように、円滑かつ大盛況のうちに第29回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムを終えることができました。実行委員会、プログラム委員会、組織委員会、放射光学会事務局、学生アルバイト、そして学生ボランティア、そして各会場関係者の多大なる貢献によって成し遂げられたこと、この紙面をお借りして深く御礼申し上げます。